

2006 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">コンピュータ技術基礎Ⅱ</p>	<p>対象学科・学年</p> <p>文学部教福1回生 教育教福1回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">開沼 太郎</p>
<p>授業テーマ</p> <p>教育実践の基礎となる論理的説明力（構成力・表現力・受容力）をプレゼンテーションの計画・実践・評価を通じて獲得する。</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>教育は、人とのかかわり＝対人型のコミュニケーションを基本とする活動である。その基盤となる論理的な文章の作成や、プレゼンテーションの技法の学習、聞き手との意思疎通を踏まえた内容の再構成、などの演習を通じて、論理的言語操作スキルの獲得を目指す。</p>		
<p>評価方法</p> <p>平常点（出席など）：30%程度、課題演習（提出・発表・実技試験など）：70%程度 を目安に総合評価を実施する。</p>		
<p>テキスト</p> <p>講義時に指示する。 必要に応じて配付資料やオンライン資料などを利用する。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p> <p>講義時に随時指示する。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <p>子ども・保護者・教師など、教育活動におけるさまざまな主体とのコミュニケーションの場面を想定し、「いかに自分の伝えたいことを相手にわかりやすいように（論理的に）説明できるか」を主題としながら、受講者全員がプレゼンテーションを持ち回りで実践する。これらのプレゼンテーションをPCに収録し、他の受講者とともに相互評価を行い、その結果を次回のプレゼンテーションの構成に反映させる。</p> <p>具体的には15回の授業期間中に以下のサイクルを数回実施し、論理的言語操作スキルの向上を目指す。</p> <p>① プレゼンテーションの計画 : 内容の構成（組み立て）・論理的文章の作成 ② プレゼンテーションの実施 : 持ち回りで実施・PCに収録 ③ プレゼンテーションの評価 : 相互評価・内容の見直し → ①へ反映</p> <p>※本授業はコンピュータをツールとして使用した「プレゼンテーション」を目的とするものであり、「コンピュータ技術基礎Ⅰ」のようにコンピュータの使用法に主眼を置いた授業とは全く異なる位置づけである。全受講者による発表と相互評価を主な手法としているため、全ての受講者が複数回にわたってプレゼンテーションを実演する機会が設けられることになる。したがって、教育現場における「プレゼンテーション力の育成」に強い関心を持つ者以外（例えばこれといった目的もなく時間割の調整のために受講するような者）は、他の受講者の妨げとなる可能性があるため、受講を控えた方が望ましい。また、状況によっては人数制限を行う場合もある。</p>		